

ほほえみがえし

川崎市のお医者さんが作る情報誌

2017 Vol.22

川崎市医師会

無料

ご自由にお持ちください



新医師会館完成記念
特集鼎談

災害対策・地域包括ケアシステム・かわさきパラムーブメントの推進

**市民と医師会が連携し、
市民が支え合えるまちづくりを目指す**

川崎市長
福田紀彦



川崎市医師会会长 高橋 章



川崎市医師会副会長 岡野敏明

川崎市医師会副会長 岡野敏明

| 医療トピックス 食物アレルギーの新しい考え方



新医師会館
完成記念
特集鼎談
H29.6.26

災害対策・地域包括ケアシステム・かわさきパラムーブメントの推進 市と医師会が連携し、市民が支え合えるまちづくりを目指す

福田紀彦川崎市長、高橋章川崎市医師会会长、岡野敏明川崎市医師会副会长に、川崎市の災害対策や地域包括ケアシステムの構築、市民が健康で安心して暮らし続けるための課題などについて語り合っていただきました。

川崎市長
...
福田紀彦

川崎市医師会会长
...
高橋 章

川崎市医師会副会长
...
岡野敏明

持続可能なまちづくりを推進 将来の課題を見据え、

**災害対策の力は
地域コミュニティーカ**
この鼎談では、「災害対策」「地域包括ケアシステム」「かわさきパラムーブメント」についてお話しできればと考えており、災害対策において多くの功績がある、副会长に来ていただきました。私が医師会の役員になって22年たまですが、役員になった年に阪神・淡路大震災が発生しました。そのとき副会长は、日本赤十字社の医療救護班として出動し、それ以後も、大災害が起ること必ず一番手で出動しています。

市長 熊本地震のときも医師会から多大なご協力をいただき、副会长にもすぐに現地入りしていただいて、医師会と川崎市との緊密な連携が必要だということを改めて感じました。

この震災を機に、DMAT*など国をあげた災害支援活動のネットワークが構築されていきました。体制が整つただろうというと同時に東日本大震災が発生しました。しかしこれは、阪神・淡路大震災も引き継がれないという問題がありました。また、共通の力がなかつたため、医療救護班が入れ替わったときに、患者さんの記録が引き継がれないという問題もありました。

この震災を機に、DMATなど用電源を整備する必要があります。3つ目は、防災意識についてです。木造住宅密集地域では火災、山間部では土砂崩れ、南部では津波への防災意識が高いですが、地域によって危機感の度合いや意識にばらつきがあるので、市民の皆さんに同じレベルの防災意識を持つていただきたいです。

市長 川崎市では、地域にどのようない難災リスクがあるのかを認識していくため、このたび、川崎区・幸区の洪水ハザードマップを改訂しました。ホームページでの公開や窓口配布のほか、説明会も開催していますが、単に情報提供するだけではなく、防災意識向上のためにもっと市民に働き掛けが必要がありますね。

が高く建物が密集しているので、避難所が人であふれる、倒壊した建物が道路をふさぐといった事態が予想され、これらにどう対処するかが課題です。

副会长 私が最も危機感を持つてるのは、救急車の問題です。災害が発生したとき、救急車を呼ぶ人は多いと思いますが、川崎市には現在、救急車が27台しかありません。市の人口は約150万人ですから、5万人に対して1台ということがあります。市民の皆さんにもこのことを知っていますが、川崎市に災害発生時に救急車を呼びべきかどうかの判断は、地域の支え合いの中で考える意識を持つていただきたいと思っております。

本大震災のとき、計画停電が実施されると、ほとんどの医療機関が閉めざるを得なくなりました。カルテが電子化されていますから、電気が使えないだけで業務ができなくなるのです。せめてパソコン

*1 DMAT……医師、看護師、医師・看護師以外の医療職および事務職員で構成される災害派遣医療チーム。
Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとってDMAT（ディーマット）と呼ばれます。



川崎市長
福田紀彦



川崎市
医師会会长
高橋 章

と全く違つタイプの震災です。けが人が多かった阪神・淡路大震災に対して、東日本大震災は、一瞬にして津波で多くの人が亡くなり、けが人は少なかった。そして熊本地震のときは、家は残っていても余震が続いたため、被災者は避難所でおびえながら長い期間、過ごすことを強いられました。

このように、異なるタイプの震災を経験したことでわかったことが多いと思います。

市長 国も、大災害を経験するたびに防災計画を改定しています。川崎市でも、副会长に推進役をお願いしている災害医療コーディネーターの整備をはじめ、さまざまな災害対策に取り組んでいます。しかしながら、川崎市は人口密度

かが激震でも、安全な地域が残されている可能性もあるので、皆さんが協力し合えば助かる人も増えます。そのためには、地域コミュニティーカが力になります。老人会のような地域の集まりや、回覧板を回すシステムがあるといったことです。隣に誰が住んでいるかわからないのは問題ですね。

災害はいつ起こるかわかりません。ですから、あらゆるケースを想定した訓練を行うことが重要となるのですが、近所の人たちで協力合い、落ち着いて行動することが、最も大事なことなのではないでしょうか。

野県神城断層地震では、死者がゼ



防災意識を持つことが大事

災害リスクにつ 云長 最後には「かわさきパラ」

会長 持續可能なまちづくりを

長期展望を持つて取り組まれていることがよくわかりました。「かわさきパラムーブメント」も「地域包括ケアシステム」も「災害対

川崎市
医師会副会長
岡野敏明

岡野敏明

たいへんありがたく思っています。
それだけではなく、今年度から市
内にある7か所の休日急患診療所
を医師会の自主事業として運営し
ていただき、非常に心強いです。

会長 本日お話を伺って、市長が
長期展望を待つて取引組まれてい
年につなげていきたいです。

特に地域包括ケアシステムでの在宅医療などは、医師が率先して推進しなくては実現できませんね。これについては、医師の理解を得ようと努めています。

市長 在宅医療もそうですが、救急医療も市民の安心・安全のために重要ですね。今年の5月に中原区に移転新築された医師会館のなかに、手狭だった中原区の休日急患診療所をつくりていただきたいへんありがたく思っています

市長 高齢化の進行に伴い、心身に障害のある人や介護を必要とする人が増えることが想定されます。また、川崎市の人口は増え続けているものの、2030年をピークに減少する見込みです。こうした将来の課題を見据え、持続可能なまちづくりを進めるために、障害年齢・人種やLGBT^{*}といったそれぞれの違いを「個性」とし、全ての人が能力を発揮できる社会環境をつくることが、この施策のコンセプトです。

市長 そのとおりです。3つの施策のキーワードは「互助」で、顔の見える関係や、互いに支え合える社会をいかにこの川崎の地でつくりあげるかというのが、大きな課題です。

そのためにも、医師会のお力は欠かすことができません。今後ともご協力をお願いいたします。

会長 はい。医師会といたしましても、精いっぱい努力していくと思います。

本日は貴重なお話をお聞かせいたしました。

地域で生き生きとした活躍でもなく、高齢者も「二の口」で会長 今後、高齢者は増加しても、そのうち8割は元気な高齢者であり、もやは高齢者がお世話しても、もう時代ではないと思います。

会長 特に男性は、目的や役割が
ないとなかなか行動しない傾向に
あるのではないかと思う。
そこで私は「アプロボン」を推奨
しています。これは、その人が持
っている専門的な知識やスキルを
社会に提供するボランティア活動

皆さんが「健康」に大きな関心を持つていて、これがわかつっています。高齢になつて海外に移住しても、日本に戻つてくるといふ話をよく聞きますが、これは医療の問題があるからです。

を自ら手助けして貰うので、皆様が協力し合って、要支援者を自ら手助けできたそうです。誰がどこに住んでいるかということは個人情報になるので、特に川崎市のような大都市では、「こうした情報を共有するのは簡単なことではない」と思います。しかしながら、要支援者がどこに住んでいるかわからぬと災害のときに救助できませんから、災害時の個人情報の扱いは、改善の余地があると思います。

市長　おっしゃるとおりです。これは、要支援者がそれを知られることを希望しないケースもあるので、非常に難しい問題です。しかし、災害対策だけでなく地域包括ケアシステムを推進していくうえでも、改善すべき課題です。

市長 高齢者に限らず子どもにも言えることなのですが、外に出てきてほしい人、情報を届けたい人ほど孤立しています。そこをどうやって引っ張り出してくるかが大きな課題で、あらゆる策を講じなくてはならないと考えています。

現在、川崎市の65歳以上の人口は約30万人で、市の総人口の約20%です。そのうち単身高齢者は約5万8千人で、これは5人に1人ということになります。単身高齢者でも地域活動などにかかわっている人はよいのですが、誰ともかわらずに孤立している人を、地元に引っ張り出す仕掛けづくりがなって自分がから参加するようになりますから。

室で教えていた
だくとよいと思
います。



食物アレルギーの新しい考え方

本来は体に無害なはずの食物に対し、免疫が過剰に反応して起る「食物アレルギー」。近年、患者数が増加しています。しかし最近では、食物アレルギーに関するさまざまな研究がすすみ、予防や治療に関する新しい考え方が普及し始めています。そこで今回は、「食物アレルギーの新しい考え方」について、国立成育医療研究センター・成田雅美先生にお話をうかがいました。

皮膚から食物が侵入することで食物アレルギーを引き起こす?!

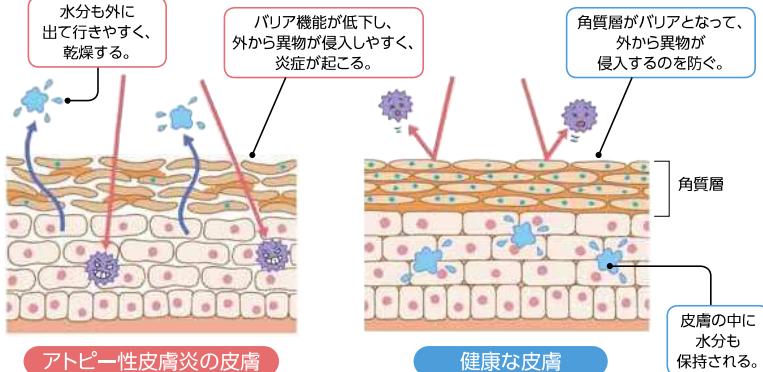
私たちの体には、有害な細菌やウイルスなどから体を守る「免疫」という働きが備わっています。この免疫が、本来は無害なはずの食べ物に関して過剰に反応してしまった状態が「食物アレルギー」です。原因となる食物が体内に入ると、じんま疹やかゆみ、ひどいときには血圧低下や呼吸困難などの症状を引き起こすこともあります。

近年、この食物アレルギーが起ころしくみに、乳児期の肌の状態が大きく関わることがわかつてきました。健康な皮膚は、一番外側の角質層がバリアとなって、外から異物が侵入するのを防ぐ働きをしています。しかし、このバリ

ア機能が低下してしまつ「アトピー性皮膚炎」があると、外から体の中に異物が入りやすい状態になります（図1）。同時に、環境にある食べ物も、皮膚から体の中に入ってきやすくなります。英国の調査では、赤ちゃんの時に湿疹があり、ピーナッツオイル入りの保湿剤を使用した場合には、その後にピーナッツアレルギーになる割合が高かったことがわかりました。アトピー性皮膚炎では皮膚の中に炎症があり、免疫にかかわる細胞が無害な食べ物を「有害」と間違つて認識してしまい、食物アレルギーを発症しやすくなると考えられています。

アトピー性皮膚炎だけでなく、□のまわりの「よだれかぶれ」のような湿疹がある場合も同様です。乳児湿疹は時期がくれば治りますが、この時期に食物への過敏反応（感作）ができるがると、食物アレルギーになってしまいます。いつまでも湿疹がおさまらない、ひどくなくなっていくという場合には、早めにかかりつけ医に相談し、適切な治療を受けることが重要です。

湿疹でもアトピー性皮膚炎でも、治療をきちんとを行い、皮膚のバリア機能を高めて炎症を抑えることが、食物アレルギーの予防につながる可能性性があるのでです。



アトピー性皮膚炎がある場合は皮膚の治療を最優先

以前は、食物アレルギーを引き起こしやすい卵やピーナッツなどを離乳早期から食べさせると、食物アレルギーを発症させる原因になると考えられていました。しかしさまざまな研究により、特定の食物の摂取開始時期を遅らせても、食物アレルギーの発症リスクは低下しない、ということがわかりました。また、妊娠中、授乳中の母親が子どもの食物アレルギー予防のために、特定の食物を除去することについても、食物アレルギーの発症予防効果がないこともわかつています。さらに最近では、アトピー性皮膚炎がある乳児の場合には、食物摂取を遅らせると食物アレルギーのリスクがむしろ高まるという報告が出ています。

子どものすこやかな成長のためには、離乳食の開始を遅らせることがなく、厚生労働省の「授乳・離乳の支援ガイド」にそつて、生後5、6か月から開始し、まんべんなくさまざまな食物を食べていくことが基本です。

離乳食を遅らせても、発症リスクは低下しません

たなし、アトピー性皮膚炎がある乳児の場合は、すでに食物アレルギーを発症している場合もあるので、注意が必要です。アトピー性皮膚炎のお子さんが離乳食を始める場合には、医師の指導のもと、安全に進める必要があります。

6月、日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出されました。この提言では、乳児期にアトピー性皮膚炎がある場合は、まず、生後うえで生後6か月から微量の鶏卵アレルギーを開始することで、鶏卵アレルギーを予防できる可能性が高くなる、と報告されています。ただしこの提言は医療者向けであり、家庭で安易に試してみると危険です。離乳食の始め方にについては、必ずかかりつけ医やアレルギー専門医に相談し指導を受けまよ。



川崎市 NEWS 医療費助成制度についてご存じでしょうか?

医療費助成制度とは医療機関にかかることで発生する医療費の負担軽減を目的とする福祉制度です。

川崎市では以下の助成制度を実施しており、対象の方は保険医療費の自己負担額が助成されます。

詳細は下記ホームページをご覧ください

*以下とは別に国および地方公共団体においてもさまざまな助成制度が実施されております。

- 小児医療費助成事業
 - ひとり親家庭等医療費助成事業
 - 成人せん息患者医療費助成制度

- 重度障害者医療費助成事業
 - 小児ぜん息患者医療費支給事業

*川崎市ホームページより、詳細を確認することができます

川崎市ホームページトップページ

<http://www.city.kawasaki.jp/>

くらし・手続き>医療・健康・衛生・動物>医療費助成制度
<http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/22>



救急医療機関のご案内

平成29年4月より川崎市医師会が運営主体となり、市内7か所の休日急患診療所の開設・管理を行っております。休日にも市民の皆様に安心いただけるように、会員が当番制で休日急患診療所への出動、また在宅当番医をやっております。

休日急患診療所

診療日

日曜・祝日・年末年始(12/30~1/4)

受付時間

午前9時~11時30分
午後1時~4時

川崎市高津 休日急患診療所

☎044-811-9300

国道246号線新二子橋手前

内科 各区の休日急患診療所 **小児科** 各区の休日急患診療所、小児急病センター
耳鼻咽喉科・眼科 休日在宅当番医

川崎市川崎 休日急患診療所

☎044-211-6555

教育文化会館前交差点の角

川崎市幸 休日急患診療所

☎044-555-0885

幸消防署隣

川崎市中原 休日急患診療所

☎044-722-7870

川崎市医師会館2階

川崎市多摩 休日夜間急患診療所

☎044-933-1120

多摩区総合庁舎内

内科夜間診療所の受付時間は
毎夜間の午後6時30分~10時30分

川崎市宮前 休日急患診療所

☎044-853-2133

東急バス宮前休日診療所前

川崎市麻生 休日急患診療所

☎044-966-2133

麻生区役所敷地内

川崎市救急医療情報センター 24時間

オペレーターによる医療機関のご案内

お問い合わせの時間に診療を行っている、近くの医療機関をご案内します。

☎044-739-1919

コンピューターによる自動応答システム

電話による医療機関案内を行っています。

☎044-739-3399

川崎市の
総合医療機関
検索サイト

「かわさきのお医者さん」を
ご利用ください。

<http://www.ryo-kensaku.jp/kawasaki/>

今診てもらえるお医者さんを探す、かかりつけ医をみつけるなど、さまざまな条件で医療機関を検索することができます。また、耳鼻咽喉科や眼科の休日当番医、薬局など、関連情報も掲載されています。



携帯電話による情報提供も行っています

(スマートフォン版)

<http://www.ryo-kensaku.jp/kawasaki/smartphone/>

(携帯電話版)

<http://www.ryo-kensaku.jp/kawasaki/mobile/>

かわさき健康づくり センターのご案内

平成26年4月1日より「かわさき健康づくりセンター」の業務を川崎市医師会が引き受けています。市民の皆様の健康づくりのために、多彩な事業を展開しております。

●自分のペースで身体づくり

トレーニングジム

●先生と一緒に身体づくり

エアロビクスダンス教室

ソフトピラティス教室／健康体操教室

体力アップ実践教室／健康フラ教室

●仲間とワイワイ身体づくり

フィットネススタジオ

テニスコート体育馆

詳しい利用方法については、お気軽にお問い合わせいただくか、川崎市医師会のホームページをご覧ください。

<http://www.kawasaki.kanagawa.med.or.jp/kenkocenter/>

かわさき健康づくりセンター ぜひ、ご利用ください！

川崎市川崎区渡田新町3-2-1

TEL : 044-333-3741 FAX : 044-333-3769

の常識が非常識に変わ
ります。二つの大きな企
画のため、今回は小
ネタの紹介はできませ
んでいた。

あとがき

新しい医師会館にて
転して、今号の特集は
市長・会長・副会長の
鼎談です。いつもとは
ちょっと違った企画に
なりました。医療アレ
ルギーの新しい考え方を
ソフスでは食物アレル
ギーの新しい考え方を
紹介しました。今まで
企業のため、今回は小
ネタの紹介はできませ
んでいた。

ishi-kai@kawasaki.kanagawa.med.or.jp

ほほえみがえし
へのご意見を
よせください